

番号	チェック名	チェック内容	対象データ	種別	フラグ内容	プロセス
ERR040	Fファイルキー重複	Fファイルの「施設コード+データ識別番号+入院年月日+データ区分+順序番号+行為明細番号+該当月」が重複	Fファイル	キー重複		<ul style="list-style-type: none"> ・重複データはFF1 データを除外データFF1 テーブルに、エラー情報と共に格納し、以降の処理には使用しない。 ・親様式1と子様式1の両方を除外する。(過去に仮確定した子様式1も除外する。)
ERR110	在院日数1日未満	入院日>退院日	FF1	除外		<ul style="list-style-type: none"> ・エラーデータはFF1 データを除外データFF1 テーブルに、エラー情報と共に格納し、以降の処理には使用しない。 ・親様式1(診療情報番号=0)がエラーの場合、子様式1(診療情報番号≥1)のレコードも一緒に除外する。(過去に仮確定した子様式1も除外する。) ・子様式1のエラーの場合は、該当子様式1は除外するが、親様式1および他の子様式1は除外しない。 ・子様式1で退院日が'00000000'である場合は、許容する。親様式1はこのエラーとなる。
ERR120	入院時年齢0歳未満	生年月日>入院日	FF1	除外		<ul style="list-style-type: none"> ・エラーデータはFF1 データを除外データFF1 テーブルに、エラー情報と共に格納し、以降の処理には使用しない。 ・親様式1(診療情報番号=0)がエラーの場合、子様式1(診療情報番号≥1)のレコードも一緒に除外する。(過去に仮確定した子様式1も除外する。) ・子様式1のエラーの場合は、該当子様式1は除外するが、親様式1および他の子様式1は除外しない。

番号	チェック名	チェック内容	対象データ	種別	フラグ内容	プロセス
ERR130	年月日誤り	実在しない年月日(13月1日、7月32日など)、およびSQLserverのdatetime型で扱えない日付(1753年1月1日以前)	ALL	除外		<ul style="list-style-type: none"> ・エラーデータはFF1データを除外データFF1テーブルに、エラー情報と共に格納し、以降の処理には使用しない。 ・対象は全ての日付情報とする ・あくまで実在しない年月日のチェックのみであり、手術日が入院日と退院日の間にあるか、などの相関チェックは行なわない。 ・'00000000'は許容する。 ・親様式1(診療情報番号=0)がエラーの場合、子様式1(診療情報番号≥1)のレコードも一緒に除外する。(過去に仮確定した子様式1も除外する。) ・子様式1のエラーの場合は、該当子様式1は除外するが、親様式1および他の子様式1は除外しない。 ・様式1開始日、様式1終了日をチェック対象に追加。
ERR140	7月から12月退棟でない、または、4月以降入棟でない(調査対象期間退棟でない、または、EF提出期間(4月～12月)以外に入棟している)	(様式1開始日が当年4月以降、かつ、様式1終了日が当年7月以降12月以前)でない	FF1	除外		<ul style="list-style-type: none"> ・エラーデータはFF1データを除外データFF1テーブルに、エラー情報と共に格納し、以降の処理には使用しない。 ・子様式1のエラーの場合は、該当子様式1は除外するが、親様式1および他の子様式1は除外しない。
ERR160	統括診療情報番号異常(3日以内再入院集約レコード)	統括診療情報番号が0以上の数字でない	FF1	除外		<ul style="list-style-type: none"> ・他のエラーデータ除外より最初に判定する。 ・エラーデータはFF1データを除外データFF1テーブルに、エラー情報と共に格納し、以降の処理には使用しない。
ERR170	様式1対象期間1日未満	様式1開始日<様式1終了日	FF1	除外		<ul style="list-style-type: none"> ・エラーデータはFF1データを除外データFF1テーブルに、エラー情報と共に格納し、以降の処理には使用しない。

番号	チェック名	チェック内容	対象データ	種別	フラグ内容	プロセス
						<ul style="list-style-type: none"> ・親様式1(診療情報番号=0)がエラーの場合、子様式1(診療情報番号≥1)のレコードも一緒に除外する。(過去に仮確定した子様式1も除外する。) ・子様式1のエラーの場合は、該当子様式1は除外するが、親様式1および他の子様式1は除外しない。
ERR180	親様式1において様式1開始日、様式1終了日が入院日、退院日に一致していない	統括診療情報番号=0かつ(様式1開始日が入院年月日と一致しない または 様式1終了日が退院年月日と一致しない)	FF1	除外		<ul style="list-style-type: none"> ・エラーデータは FF1 データを除外データ FF1 テーブルに、エラー情報と共に格納し、以降の処理には使用しない。 ・親様式1(診療情報番号=0)がエラーの場合、子様式1(診療情報番号≥1)のレコードも一緒に除外する。(過去に仮確定した子様式1も除外する。) ・子様式1のエラーの場合は、該当子様式1は除外するが、親様式1および他の子様式1は除外しない。
ERR190	様式1開始日が入院と退院の範囲外である	様式1開始日<入院年月日 または 様式1開始日>退院年月日	FF1	除外		<ul style="list-style-type: none"> ・エラーデータは FF1 データを除外データ FF1 テーブルに、エラー情報と共に格納し、以降の処理には使用しない。 ・親様式1(診療情報番号=0)がエラーの場合、子様式1(診療情報番号≥1)のレコードも一緒に除外する。(過去に仮確定した子様式1も除外する。) ・子様式1のエラーの場合は、該当子様式1は除外するが、親様式1および他の子様式1は除外しない。
ERR200	様式1終了日が入院と退院の範囲外である	様式1終了日<入院年月日 または 様式1終了日>退院年月日	FF1	除外		<ul style="list-style-type: none"> ・エラーデータは FF1 データを除外データ FF1 テーブルに、エラー情報と共に格納し、以降の処理には使用しない。 ・親様式1(診療情報番号=0)がエラーの場合、子様式1(診療情報番号≥1)のレコードも一緒に除外する。(過去に仮確定した子様式1も除外する。)

番号	チェック名	チェック内容	対象データ	種別	フラグ内容	プロセス
						・子様式1のエラーの場合は、該当子様式1は除外するが、親様式1および他の子様式1は除外しない。
ERR510	EファイルとFファイルの不整合(Fファイルデータ存在チェック)	Eファイルの各レコードに対して、同じ月のFファイルに同じ「施設コード+データ識別番号+入院年月日+データ区分+順序番号」を持つレコードが存在しない。	Eファイル、Fファイル	フラグ	0:エラー無し 1:Fファイルデータ欠落有り	・親様式1(診療情報番号=0)のみチェック対象。 ・子様式1(診療情報番号≥1)はチェック対象外。フラグは0を設定する。
ERR520	EファイルとFファイルの不整合(Eファイルデータ存在チェック)	Fファイルの各レコードに対して、同じ月のEファイルに同じ「施設コード+データ識別番号+入院年月日+データ区分+順序番号」を持つレコードが存在しない。	Eファイル、Fファイル	フラグ	0:エラー無し 1:Eファイルデータ欠落有り	・親様式1(診療情報番号=0)のみチェック対象。 ・子様式1(診療情報番号≥1)はチェック対象外。フラグは0を設定する。
ERR530	入院期間外のEFファイルレコードが存在する。	Eファイルの実施日<FF1の入院日 または FF1の退院日<Eファイルの実施日	FF1,Eファイル、Fファイル	フラグ	0:エラー無し 1:入院期間外Eファイルデータ有り	・親様式1(診療情報番号=0)のみチェック対象。 ・子様式1(診療情報番号≥1)はチェック対象外。フラグは0を設定する。
ERR540	Eファイル、Fファイルの退院日がFF1と異なる。	「施設コード+データ識別番号+入院年月日」がFF1とEファイル、Fファイルで同一であるが、退院日が異なる。	FF1,Eファイル、Fファイル	フラグ	0:エラー無し 1:Eファイルの退院日がFF1と異なる 2:Fファイルの退院日がFF1と異なる 3:EファイルとFファイルの両方の退院日がFF1と異なる	・親様式1(診療情報番号=0)のみチェック対象。 ・子様式1(診療情報番号≥1)はチェック対象外。フラグは0を設定する。

番号	チェック名	チェック内容	対象データ	種別	フラグ内容	プロセス
ERR550	入院基本料または特定入院料を算定しない日があるかチェックする	Fファイルでデータ区分 90 (入院基本料)または 92 (特定入院料)の点数がない日がある。	Fファイル	フラグ	0:エラー無し 1:入院基本料または特定入院料を算定した前に、入院基本料または特定入院料を算定しない日がある(ただし、2のケースを除く) 2:入院基本料または特定入院料を算定した後に、退院前に入院基本料または特定入院料を算定しない日がある	・親様式1(診療情報番号=0)のみチェック対象。 ・子様式1(診療情報番号≥1)はチェック対象外。フラグは0を設定する。
ERR610	FF4 除外	FF4で「1.医科レセプトのみ」以外	FF4	フラグ	0:エラー無し(医科レセプトのみ) 2:歯科レセプトあり 3:保険請求なし 4:保険と他制度の併用 5:その他 9:FF4に対応レコード無し	・FF4にレコードがない場合もフラグ設定する。 ・親様式1(診療情報番号=0)のみチェック対象。 ・子様式1(診療情報番号≥1)はチェック対象外。フラグは0を設定する。
ERR710	24時間以内死亡	FF1で「24時間以内死亡の有無」が「24時間以内死亡の有り」または「救急患者として搬送され、入院前に処置室、手術室等で死	FF1	フラグ	0:エラー無し(24時間以内死亡無し) 1:24時間以内死亡有り	

番号	チェック名	チェック内容	対象データ	種別	フラグ内容	プロセス
		亡有り」			2:救急患者として搬送され、入院前に処置室、手術室等で死亡有り	
ERR720	生後7日以内に死亡	退院時転帰が死亡、かつ退院日が生年月日から7日以内(生年月日当日は1日とカウント)	FF1	フラグ	0:エラー無し(生後7日以内の死亡無し) 1:生後7日以内の死亡有り	
ERR730	治験対象	FF1で「治験実施の有無」が「有り	FF1	フラグ	0:エラー無し(治験実施無し) 1 治験実施有り	
ERR740	移植手術あり	Fファイルに移植手術に該当するKコードに該当するレセ電算コードを持つ。移植手術のKコードは厚労省告示に基づく。(H15第75号、H18第138号)	Fファイル	フラグ	0:エラー無し(移植手術無し) 1:移植手術有り	対象となる移植手術はH20で変更はないはずだから確認すること。 ・親様式1(診療情報番号=0)のみチェック対象。 ・子様式1(診療情報番号≧1)はチェック対象外。フラグは0を設定する。
ERR750	厚生労働大臣が定める者	Fファイルに厚労省告示に該当する医科点数表コードを持つ。(H16第107号、H18第139号、H20第94号)	Fファイル	フラグ	0:エラー無し(厚生労働大臣が定める者でない) 1:厚生労働大臣が定める者である	H20年度の告示に合わせる必要有り。 ・親様式1(診療情報番号=0)のみチェック対象。 ・子様式1(診療情報番号≧1)はチェック対象外。フラグは0を設定する。
ERR760	一般病棟外への移動	FF1で「一般病棟外への移動あり」がある(～H16)。「精神病棟への入院あり」または「その他の病棟への入院有り」がある(H17～)。	FF1	フラグ	0:エラー無し(一般病棟外への入院無し) 1:一般病棟外への入院有り	
ERR770	年齢120歳以上	入院時年齢が120歳以上	FF1	フラグ	0:エラー無し(入院時年齢120	

番号	チェック名	チェック内容	対象データ	種別	フラグ内容	プロセス
					歳未満) 1:入院時年齢 120 歳以上	
ERR780	手術が輸血のみ	FF1 の手術1～5に輸血だけしか存在しない	FF1	フラグ	0:エラー無し(手術なし、または、輸血以外の手術あり) 1:手術が輸血のみ	

D. 考察

本研究の結果から、提出されているデータについて、一定数のエラーが含まれていることがわかった。特にキー情報の重複や必要なデータが欠損している症例などは、分析に影響度が大きいので、それを確実に除去できるようになったことは成果である。

また、分析の方向性によって、使用の可否が決まる入院患者レコードがあるということが本研究の過程で判明した。たとえば、入院の途中で保険適応になる患者について、それを分析に含めるか否か、その場合の在院日数はどの範囲を指すべきなのか、などといった点は、研究の目的に応じて、それを研究者が容易に判断できる環境にあることは結果の妥当性を維持するためにも重要である。今回の研究で、留意が必要な入院レコードに対してそのフラグメント化ができたことは大きな成果であったといえる。今後の開発においてもさらなる留意コードが必要かについてその使い勝手とともに検討していきたい。

現時点ではいまだにいくつかのテーブルについては一般的な研究者の持つ環境ではハンドルの難しいサイズのレコード数を持っている状況にある。今後、このデータセットを使って、研究者が共通して使える集計データを作成し、より容易に研究ができるデータ環境を構築していく必要がある。この点が来年度の課題である。

E. 結論

本年度、平成 21 年度分までの分析用データセットの作成が完了し、運用することもできた。

次年度以降、より容易に研究ができるデータ環境を構築していく研究を行っていきたい。

DPC 調査データ収集におけるセキュリティ強化に関する研究

堀口 裕正 東京大学大学院医学系研究科 医療経営政策学講座(研究協力者)
康永 秀生 東京大学大学院医学系研究科 医療経営政策学講座(分担研究者)
石川 ベンジャミン 光一 国立がんセンター(分担研究者)
藤森 研司 北海道大学 医療マネジメント寄附研究部門(分担研究者)

研究要旨

厚生労働省の調査では厚生労働省委託先企業の作成したデータチェック兼暗号化ソフトを利用した収集が行われている。但し、そのソフトウェアで暗号化されたファイルを復号化できるのは厚生労働省だけであり、研究者に開放されていない。

その結果、本研究によって収集する DPC 調査データは昨年度まで暗号化される前の状態で収集されていた。本研究班では、昨年度まで暗号化されていないファイルを MO に入れて郵送しており、セキュリティ上問題も大きかった。

そこで、誰もが共通に使える暗号化ソフトウェアを開発し、DPC データを利用した研究をより安全にかつ、医療機関側の管理負担を軽減することとし、本研究班でそのシステムを運用することとした。なおこのシステムはオープンソースで開発するものとし、誰でも使えるものとするのも目的としている。

このシステムについて、本年度約 800 病院との毎月のデータ交換の中では、大きな問題がなく、安定的に運用することができた。

A. 目的

厚生労働省の調査では厚生労働省委託先企業の作成したデータチェック兼暗号化ソフトを利用した収集が行われている。但し、そのソフトウェアで暗号化されたファイルを復号化できるのは厚生労働省だけであり、研究者に開放されていない。

その結果、本研究によって収集する DPC 調査データは昨年度まで暗号化される前の状態で収集されていた。本研究班では、暗号化されていないファイルを MO に入れて郵送しており、セキュリティ上問題も大きかった。

また、その結果として病院側の作業としても暗号化されたファイルと暗号化前のファイルが混在し、間違ったファイルを送付するなどのトラブルが起き、管理が複雑になっている。

そこで、誰もが共通に使える暗号化ソフトウェアを開発し、DPC データを利用した研究をより安全にかつ、医療機関側の管理負担を軽減することとし、本研究班でそのシステム

を運用することとした。なおこのシステムはオープンソースで開発するものとし、誰でも使えるものとするのも目的としている。

B.方法

まずは openPGP(公開鍵方式)を利用した暗号化ソフトおよび復号化ソフトウェアを開発を行う。その際、ソフトウェアのライセンスはオープンソースを採用することとした。

医療機関側に配布するソフトウェアについて

暗号化のエンジンは GnuPG(GPL ライセンスに基づくオープンソース)を使用し、医療機関側で使いやすい UI を付与したソフトウェアとする。Windows で動作するソフトを想定。将来的には PKI を使用した物を検討するが、今年度はソフトウェアに公開鍵を組み込む機能をつけた上で、必要な公開鍵を同時配布する方法とする。

受け取り機関用のソフトウェアについて

復号化ソフトについては GnuPG を利用できるようにした簡易な UI を付与した物を開発、配布する。また、本研究班での情報処理システムに組み込んだ復号化システムも同時に開発をし、利用する。

開発及び運用環境

研究班が収集している DPC データは数百病院分にもおよび、膨大なサイズとなるため、研究班側の受け取りシステムは以下の環境での開発及び運用を行っている。

OS: Windows Server 2008

DB: SQL 2008 Server Enterprise Edition

開発環境: Visual Studio 2008 及び Qt

設置場所: 東京大学医学系研究科医療経営政策学講座サーバー室内

なお、研究データの守秘性の観点から、データは入室に指紋認証が必要で、窓のない部屋内にサーバー・クライアントともに設置し、大学のネットワークとも物理的に隔絶された管理区域内の研究専用 LAN 内で作業を行っている。

医療機関配布を前提とした暗号化ソフトウェアについては、以下の開発環境および、ソフトウェアを利用して作成した。

1) tar32.dll(Ver0.53) http://openlab.ring.gr.jp/tsuneo/soft/tar32_1/

吉岡 恒夫さんが開発されたファイルアーカイブ用 DLL。

2) GnuPG(Version 1.4.9) <http://www.gnupg.org/download/>

GNU Privacy Guard (GnuPG)は Pretty Good Privacy (PGP) の別実装として、GPL に基づいた暗号化ソフト。OpenPGP 規格 (RFC2440) に完全準拠。

3) Qt(キュート)(Version 4.5.1) <http://www.qtsoftware.com/downloads-jp>

ノルウェーの Qt ソフトウェア社によって開発された、C++言語で書かれたクロス・プラットフォーム GUI ツールキット。オープンソース版のライセンスは GPL。

C.結果

1, openPGP(公開鍵方式)を利用した暗号化ソフトおよび復号化ソフトウェアを開発
ファイル暗号化支援ソフト (Simple and Secure Software for Encryption) (通称 S3E)
を作成した。

「ファイル暗号化支援ソフト (Simple and Secure Software for Encryption) (通称 S3E)」は、GnuPG を使用してファイルの圧縮暗号化を簡単に行うための支援ソフトで、選択された複数のファイルを tar.gz(tgz)フォーマットで1ファイルにまとめて圧縮し、GnuPG で暗号化をおこなうものである。

ソフトウェアは本分担研究者の内、堀口 裕正・藤森 研司・石川ベンジャミン光一の3者が個人として、共同でアイデアとリソースを出し合い作成をおこなった。

また、このソフトウェアについては、そのライセンスとして GNU 一般公衆利用許諾契約書(GNU General Public License:GPL) Version 3 (以下 GNU GPL)を適用することとした。このライセンスは次のような特徴を持つ。

- ・ソースコードが公開されている
- ・誰でも自由にプログラムの複製、頒布、改変ができる
- ・派生するソフトウェアにも GNU GPL を適用しなければならない

ライセンス選択の理由であるが、本ソフトウェアは、作動の前提となるソフトウェアが GPL ライセンスを採用していたこともあり、GPL の適用が望ましいと考えた。

このソフトウェアを実行すると、暗号化ファイルおよびレシートファイルが作成される。暗号化ファイルおよびレシートファイルは、下記の命名規則により作成される。

暗号化ファイル : ID_yyyymmddhhmmss.tgz.gpg

レシートファイル : ID_yyyymmddhhmmss.txt

(ID は、ユーザ情報設定画面で設定した ID。yyymmddhhmmss は、暗号化を実行した年月日時分秒)

レシートファイルには、暗号化後のファイル名 (EF)、ファイルサイズ (FS)、対象ファイル名 (IF) が記載される。

なお、本プログラム内部で使用する、tar および gpg コマンドは下記のとおりである。

```

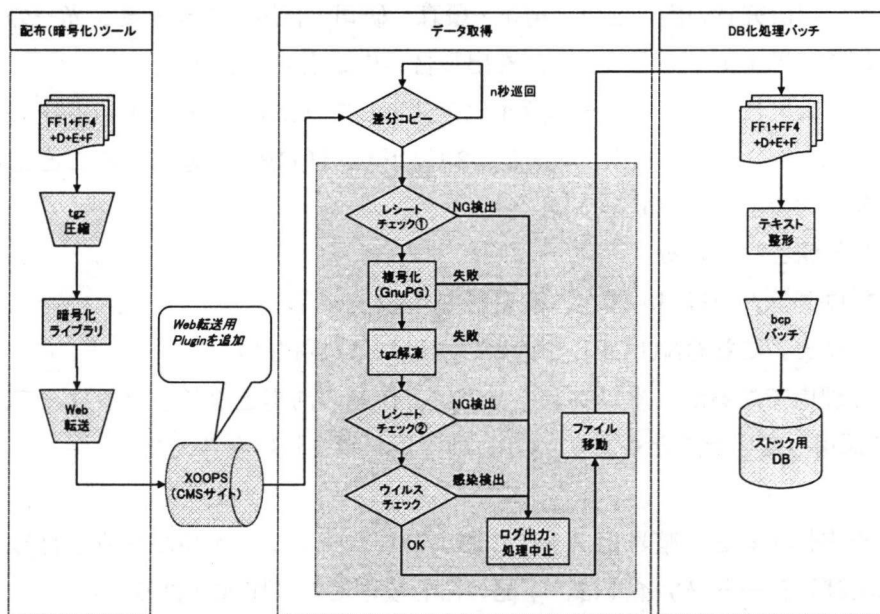
tar cfz fileName.tar.gz tmpDirName      tar.gz 圧縮
gpg -n --verbose --import filePath      インポート済みかどうかのチェック
gpg --verbose --import filePath        公開鍵インポート
gpg --fingerprint keyid                公開鍵の指紋読み取り
gpg --list-sigs keyid                  公開鍵の署名読み取り
gpg --batch --yes --delete-keys keyid   公開鍵の削除
cmd.exe /c echo y | gpg --command-fd 0 --encrypt --recipient keyid filePath  暗号化
    
```

なお、ユーザー用の管理マニュアルを資料としてつけるものとする。

2, 受付システムの開発。

情報受付・処理システムの開発を行った。作業フローは以下の通りである。

病院からのアップロード&データ処理の実装概要



3, 運用

本研究班において、4月から12月まで1及び2にあげたシステムの運用を行い、問題なく情報収集・処理を行うことができた。

D.考察

本年度、より安全な情報収集体制について問題なく運用することができた。約 800 病院で 6 ヶ月にわたり暗号化が行われ、それを全て本研究班側で復号化したという実績は、ソフトウェア及びこのシステムの可用性を十分に証明できるものであると考えている。また、このセキュアな情報収集システムに必要なソフトウェアは全てオープンソースで作成されており、誰でも自由に使うことが出来る。

また、このシステム(及びソフトウェア)はどのような情報であってもデータをセキュアにやりとりを行うのに利用可能なシステムとなっている。今後、このシステムについては、DPC データをやりとりする研究者(研究班)のみならず、デジタルデータの安全な情報収集を行う必要がある研究者にも利用してもらい、より安全な研究環境が構築されることが期待できるものである。

E.結論

次年度以降、さらにより容易に情報収集ができるデータ環境を構築していく研究を行っていきたい。

松田班 ファイル暗号化支援ソフト操作マニュアル

平成21年8月14日

初版

第一章 はじめに

1. 概要

この「ファイル暗号化支援ソフト (Simple and Secure Software for Encryption) (通称 S3E)」は、GnuPG を使用してファイルの暗号化を簡単に行うための支援ソフトです。

初期設定として松田班調査用に送付先 (公開鍵) の設定がされています。

2. 主な機能

- 1) 暗号化するファイルを複数指定することが可能です。

選択された複数のファイルを tar.gz(tgz)フォーマットで1ファイルにまとめて圧縮し、GnuPG で暗号化します。

- 2) 公開鍵を複数登録することができます。

登録してある公開鍵を選択し、その公開鍵を使用して暗号化を行います。

公開鍵一覧から選択した公開鍵の鍵 ID・指紋・署名等の詳細情報を確認することができます。

3. 動作条件

以下の Windows OS が動作する環境下での使用を推奨します。

- ・ Windows XP、Windows Vista、Windows 7

4. 作者

このソフトウェアは以下の3者が個人として、共同でアイデアとリソースを出し合い作成したものです。

堀口 裕正 (hiromasa-ky@umin.ac.jp)

藤森 研司 (fujimori@med.hokudai.ac.jp)

石川ベンジャミン光一 (kishikaw@ncc.go.jp)

[URL:http://plaza.umin.ac.jp/~hmp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi?page=%A5%D5%A5%A1%A5%A4%A5%EB%B0%C5%B9%E6%B2%BD%BB%D9%B1%E7%A5%BD%A5%D5%A5%C8%A1%CA%C4%CC%BE%CE%A1%A1%A3%D3%A3%C5%A1%CB](http://plaza.umin.ac.jp/~hmp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi?page=%A5%D5%A5%A1%A5%A4%A5%EB%B0%C5%B9%E6%B2%BD%BB%D9%B1%E7%A5%BD%A5%D5%A5%C8%A1%CA%C4%CC%BE%CE%A1%A1%A3%D3%A3%C5%A1%CB)

5. ライセンス

S3E には、"GNU 一般公衆利用許諾契約書(GNU General Public License:GPL) Version 3" (以下 GNU GPL)を適用します。

このライセンスは次のような特徴を持ちます。

- ・ ソースコードが公開されている

- ・誰でも自由にプログラムの複製、頒布、改変ができる
- ・派生するソフトウェアにも GNU GPL を適用しなければならない
- ・GNU GPL のより詳しい内容は、展開(解凍)フォルダ/doc/COPYING.txt をご覧ください。

他の団体・プロジェクト等で作成されたプログラムについて。

このパッケージには、本プログラムを使用するために必要なもので、他の団体・プロジェクト等で作成されたプログラムも同梱されています。

これらのプログラムの著作権は、それぞれのプログラムの作者が保有しています。

改変・再配布等の条件はそれぞれのプログラムのライセンスに従ってください。

同梱プログラム

- ・ tar32.dll http://openlab.ring.gr.jp/tsuneo/soft/tar32_1/
- ・ GnuPG <http://www.gnupg.org/download/>
- ・ Qt <http://www.qtsoftware.com/downloads.jp>

1) tar32.dll(Ver0.53)

吉岡 恒夫さんが開発されたファイルアーカイブ用 DLL。

2) GnuPG(Version 1.4.9)

GNU Privacy Guard (GnuPG)は Pretty Good Privacy (PGP) の別実装として、GPL に基づいた暗号化ソフト。OpenPGP 規格 (RFC2440) に完全準拠。

3) Qt(キュート)(Version 4.5.1)

ノルウェーの Qt ソフトウェア社によって開発された、C++言語で書かれたクロス・プラットフォーム GUI ツールキット。オープンソース版のライセンスは GPL。

6. 問い合わせ先

「松田班 ファイル暗号化支援ソフト」に関する問い合わせは下記の要領でメールにてお願いします。

メールアドレス : dpc-cost09@prism.com

件名 : 暗号化ソフトに関する問い合わせ

貴院名、氏名を必ず本文中に記載して下さい。

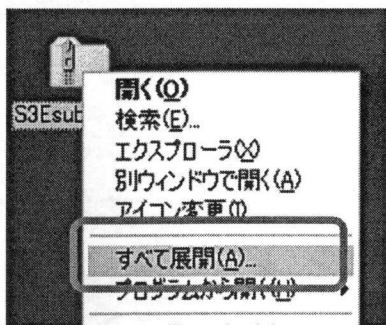
第二章 セットアップ

※ソフトのインストールは administrator 権限（管理者権限）のあるユーザーで必ず行ってください。

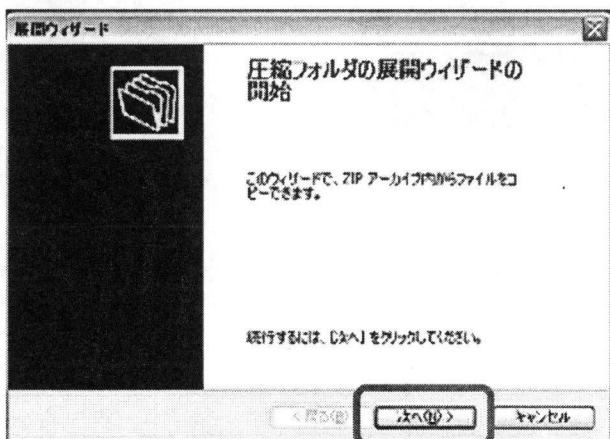
1. ソフトのインストール方法

1) S3Esubset.zip ファイルの上でマウスを右クリックします。（又は別の解凍ソフトを用いて解凍（展開）しても構いません）

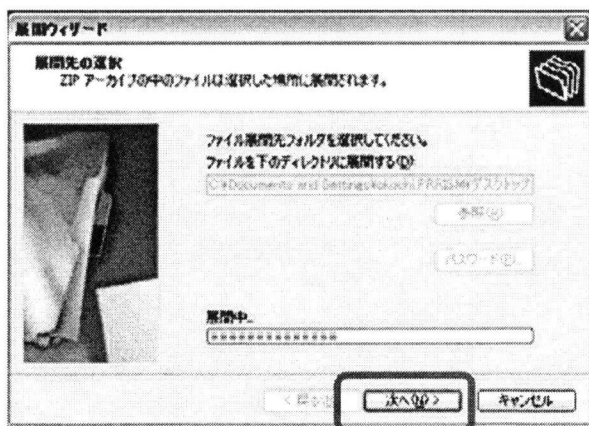
2) すべて展開を選択します。



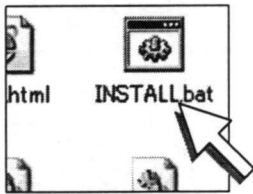
3) 展開ウィザードが開きますので、次へボタンをクリックします。



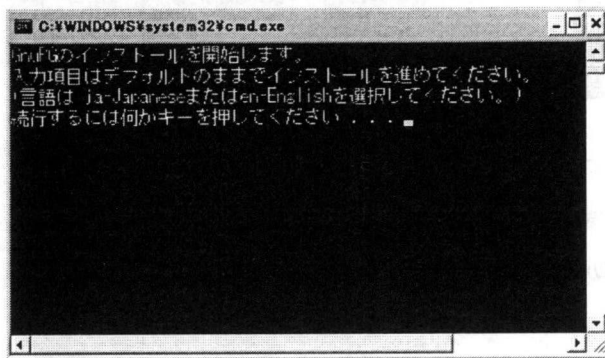
4) ファイル展開先フォルダは参照ボタンから適切なフォルダを選択し、次へボタンをクリックします。



- 5) 完了ボタンをクリックして展開（解凍）を終了します。
- 6) 展開されたフォルダ内の「INSTALL.bat」をダブルクリックすると、最初に GnuPG のインストーラが起動します。（S3E を動作させるには、GnuPG をインストールする必要があるため。）



何かキーを入力して進めてください



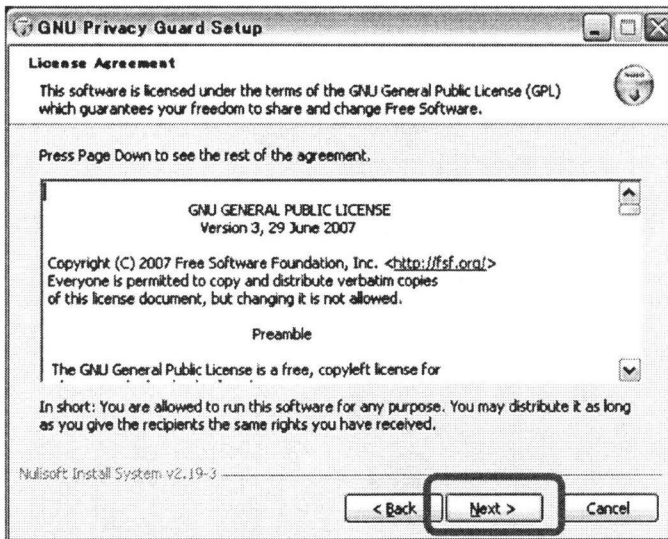
この画面が出た場合はそのまま OK を押してください。



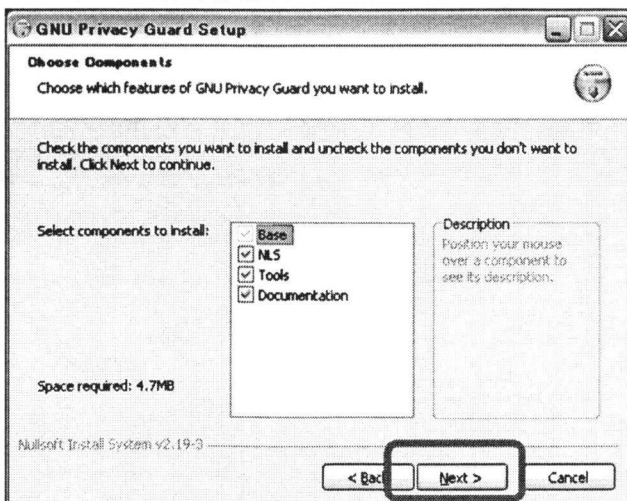
- 7) セットアップウィザードが表示されるので、以下手順でセットアップします。
・ GnuPG version 1.4.9 というバージョン表示を確認し → NEXT ボタンをクリックする。



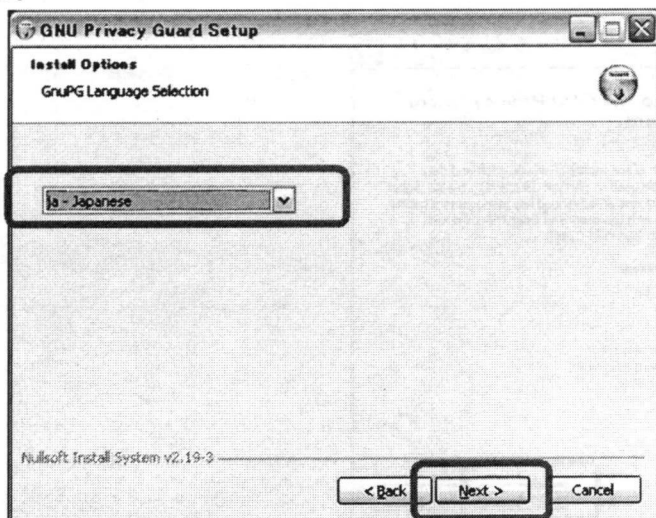
- ・ ライセンス合意画面表示 → NEXT ボタンをクリックする。



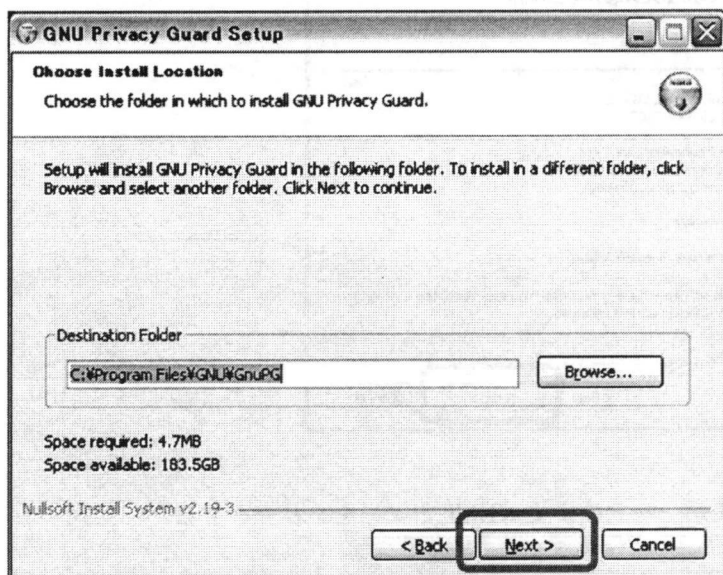
- コンポーネント選択画面表示 → そのまま NEXT ボタンをクリックする。



- ・言語選択画面表示 → ja-Japanese または en-English を選択し NEXT ボタンをクリックする。

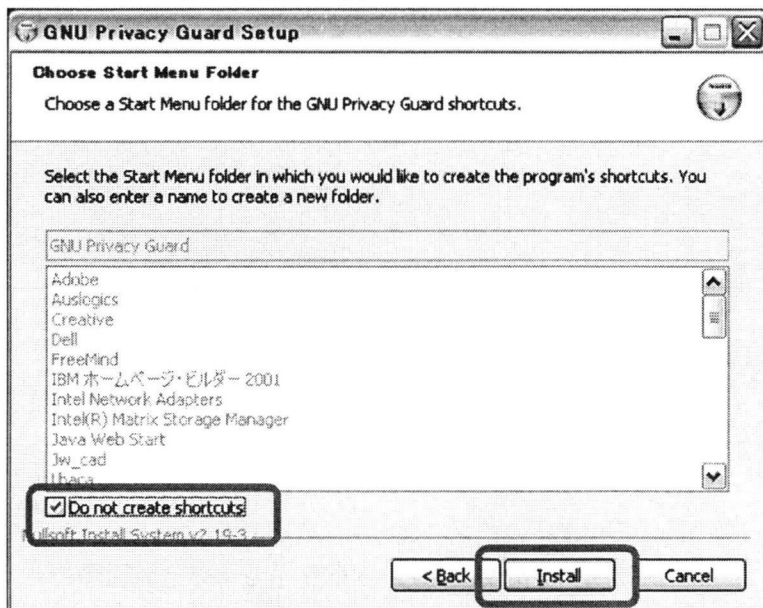


- ・インストールフォルダ選択画面表示 → デフォルトのままとする。
32 ビット版 OS → C:\Program Files\GNU\GnuPG
64 ビット版 OS → C:\Program Files (x86)\GNU\GnuPG



注意：インストールフォルダを変更した場合は、本アプリケーションの ini ファイルに、その旨記述する必要があります。

- ・ ショートカット要否画面表示 → 作成しない (Do not create shortcuts)をクリックし Install ボタンをクリックする。



- ・ インストール完了画面表示 → セットアップ正常終了 (successfully)を確認し NEXT ボタンをクリックする。

